|  |
| --- |
| 授業での作文について |

**１　課題内容**

|  |
| --- |
| 自分にとっての「旅」を定義しよう。 |

**２　評価基準（Ｂ評価）**

|  |
| --- |
| ○以下の４つの条件を踏まえて書いているもの  ①　自分の考える「旅」の定義が書かれている。  ②　「おくのほそ道」から捉えた芭蕉の「旅」に対する考えが書かれている。  ③　並行読書で読んだ本からの「旅」に対する考えが書かれている。  ④　②と③を比較・分析し，自分の体験等を踏まえて①を書いている。 |

**３　想定する作文例**

　（１）Ｂ評価

　　２つの作品を通して考えられる「旅」とは，「この世の中にあると言われているものを，自分自身の目で見て感じることで実在のものにする作業」だと考える。

　「おくのほそ道」には，「白河の関越えむ」「松島の月まづ心にかかりて」という表現がある。この表現から，芭蕉が「東北に行きたい」「あの有名な『松島の月』がどれほど美しいのか，この目で実際に見てみたい」という強い思いが感じられる。

　また，「世界中で迷子になって」には，「旅をしたいと思うとき，いつも，本当にそこに世界があるかどうか，知りたいだけなのである」という表現がある。この作品の筆者である角田光代さんは小さい頃から，自分が生きている世界とそれ以外の世界の違いが自覚できなかった。そんな筆者にとって，小説や映画に出てくる世界中のいろんな場所へ自分で実際に出向き，自分の目で見ることで，その場所が本当に存在していることを知ることが旅であったのだ。

　私の旅に対する考え方も，芭蕉や角田さんの考えと似ていると思う。テレビや雑誌などで世界のさまざまな風景を見たときに私が感じるのは，その景色がどれほど美しいものであったとしても，「本物の美しさには適わないのではないのではないか」という思いだ。そして，そういう思いがある限り，その場所に実際に行かないことには，自分の気持ちが満たされることはない。

　このことから，旅とは「知らなかった世界を実在のものにすることができるもの」だと考えられる。

  （２）Ｃ評価　（④（②・③）の比較・分析が不十分）

　　　私の考える旅とは，目的を果たすためにあるものだと思う。

　　芭蕉の旅は目的を成し遂げたいと思って出発した。

　　「母をたずねて三千里」の旅は，お母さんに会いたいから船に乗り込んだ。

　　私もどこかに出かけるときは必ず目的がある。だから，旅とは，目的を果たすものだと思う。

**４　実際に生徒が作成した作文**

（１）「おおむね満足できる」状況（Ｂ）と判断した例

❶二つの作品を通して考えられる旅とは，人生を彩り豊かにするものであると私は考える。

　　おくのほそ道では，旅とは「人生そのもの」だと述べられている。「舟の上に生涯を浮かべ，馬の口とらへて老いを迎ふる者は日々旅にして旅をすみかとす。」とあるように，芭蕉は，旅を生活の一環として考えている。

　　「旅に思う」の本では，旅とは「世界を知ること」だと述べられている。「なぜこれほどまでに（旅に）取り憑かれたのかといえば，世界を知るのが遅かったからだと思う。」とあるように，筆者は旅によって自分の中の世界を広げることができたのだと述べている。

　　私は旅の中にある新たな発見や出会いが，自身の価値観や世界観を広げ，人間らしくのびのびと生きるきっかけになるのだと考える。

　　Ａさんは，旅とは生きること自体だと考えている。素晴らしい景色を見たり，素晴らしい体験をしたりすることで生きていることを実感でき，生きていることのありがたみを改めて感じることができるのだと考えている。

　　これを聞いて，私は旅とは人生を彩り，豊かにするものだと考えているが，Ａさんの考えとも似ていると思った。「世界の果てまでイッテＱ」という番組では，人気タレントが時には灼熱の砂漠，時には極寒の氷雪地など，世界の果てへと旅立つ。この番組の面白さは日本では見られない，外国の美しい風景を見られること，また，現地の人々との交流である。知らなった情報や，自身と違う場所で生きた人々の価値観を知ることができる。それまで狭かった視野がぱっと開けるような感覚を覚えさせ，自身の生き方を改めて考えるきっかけとなり，その後の人生を豊かにするものであると考えた。

❷芭蕉は旅とは命がけの冒険だと考えていたことが読み取れます。理由は「古人も多く旅に死せるあり」とあるし，目的はあるけれど，それだけのためではなく，はっきりしていないからです。

　　「はじめに世界があると知る」では，旅は知りたくてするものだと定義していると思います。理由は筆者が「本当に世界があるのか知りたいだけなのである」と述べているからです。

　　僕が考える旅とは，未知との出会いを求めてするものだと思います。理由は芭蕉も「はじめに世界があると知る」の筆者も新しいものを求めて旅をしているからです。

　　Ａさんの「旅そのものが目的の一環だと」いう考えを聞いて，自分の考えに近いなと思いました。僕は旅とは，未知との出会いを求めてするものだと考えていたけれど，未知との出会い以外にも自分をさがすためなど，旅の中で自然と達成できる目的もあるから，Ａさんの考えと似ているところもあるのかなと思いました。

　　僕は旅とはまだ知らないことやものに出会うためにするものだと考えます。理由は僕が旅行にいくときには，まだ見たことがないものを見に行ったり，また食べたことがないものを食べたりするなど，新しいものを求めるからです。新しいものに出会うことで，自分自身がその旅で感じたことを自分の成長につなげることができると思います。芭蕉が「日々旅にして旅をすみかとす」という人がいると考えていたのは，人生の中で新しいことに出会うから，旅が日常であり，人生が旅であると思っていたからだと思います。また，「はじめに世界があると知る」の筆者も世界の存在を知りたくて，旅をすると述べているので，旅はまだ自分の知らない新しいことを知るためにするものだと思います。

（２）「努力を要する状況（Ｃ）」とした生徒解答例

（④（②・③）の比較・分析が不十分）

❶芭蕉は旅を自分のしたいことをすることだと考えていると思いました。芭蕉は自分のやりたいことのために今まで住んでいた家を譲ったからです。

　　ワンピースでは，旅を仲間と一緒に夢を追うことと考えていると思いました。ルフィーがシャンクスのようになるため，海賊王になるために旅をしているからです。

　　Ａさんは，旅とは冒険と考えていて，導かれるものだと言っていました。私も一緒で旅とは，たくさんのことを見つけ，色々なものとの出会いなど全部をひっくるめて冒険だと思いました。

（①が明確でない，④（②・③）の比較・分析が不十分）

❷芭蕉の考えは，旅とは住まいだと読み取れ，母を訪ねて三千里では，旅とは面白い，素晴らしいと読み取れました。私は，この二つから旅とは住まいとするほど面白く，素晴らしいものだと考えました。

　　他の人は，たくさんの人と関わり助け合う素晴らしいものや，新たな自分を見つけると言っていたので，私の意見に少し似ていると思いました。

　　このことから，私は住まいとするほど旅は面白く，新たな自分を見つけられる素晴らしいものだと思いました。なぜなら新たな自分を見つけると言っていたので，旅とは新たな自分を見つけられる素晴らしい点もあると思いました。